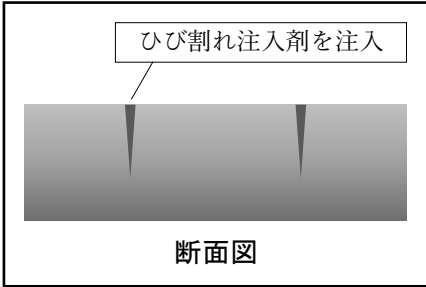


発生箇所	③コンクリート版表面
分類	材料・施工
参考箇所	5-4-2 配筋, 5-6 コンクリートの配合
<p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 連続鉄筋コンクリート舗装に 0.5mm 以上の幅の広いひび割れが生じた。 	
<p>●原因</p> <ul style="list-style-type: none"> コンクリートのセメント量が多いなどの理由により、コンクリートの強度が過剰となり、ひび割れ発生時の鉄筋の応力が高くなり過ぎてしまった結果、ひび割れを制御できなくなりひび割れ幅が開いた。 鉄筋の配置位置が通常よりも低い位置になっていたため、適切なひび割れ制御効果が得られずひび割れ幅が開いた。 	 <p style="text-align: center;">断面図</p>
<p>●発生防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> 連続鉄筋コンクリート舗装は、ひび割れを分散させるために、鉄筋比とコンクリート強度のバランスを適切にする必要がある。セメント量過多による過剰な配合強度とならないよう、レディーミクストコンクリート工場と事前に協議を行う。 鉄筋の配置位置を設計通りの高さになるように留意して配筋する。 	 <p style="text-align: center;">断面図</p>
<p>●発生した場合の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨水などの浸透が予測されるひび割れの場合は、ひび割れ注入などにより補修する。 ひび割れから水が浸入し、中の鉄筋が腐食し錆汁が路面に確認された場合などは、局部打換えを行う。 	 <p style="text-align: center;">断面図</p>